モンゴル・ゴビ砂漠の自然生態系の保全と社会生活の改善

ERINA調査研究部研究主任　Sh. エンクバヤル

この度、モンゴルのドルノゴビ（東ゴビ）県サインシャンド市を訪れる機会を得た。私にとっては初めての訪問で、新潟から在新潟モンゴル国名誉領事の中山氏を団長とする使節団に同行した。ドルノゴビ県の要請により植林の開発状況を視察するためであった。昨年の総選挙後、ドルノゴビ県の知事となったP. ガンフヤグ氏は、日本の大学を卒業した最初のモンゴル人の１人で、東京のモンゴル大使館に何年間も勤めた人である。

サインシャンド市はウランバートルから南へ470km、ドルノゴビ県の中央に位置する。モンゴル縦断鉄道の普通列車で約10時間。人口約２万人で、ドルノゴビ県全体の１/３以上を占める。仏教の高僧で学者でもあったダンザンラブジャーがおよそ180年前に建立したハマリーン寺院の修復によって、サインシャンドは今、主要な観光地の１つとして注目されている。ダンザンラブジャーの弟子であった日本人が植えた桜の木が、今も毎年５月になると花を咲かせ、訪れる人たちを驚かせている。

モンゴル･ゴビ高原の中央に位置するサインシャンドは、地球温暖化の影響で急速に砂漠化が進んでいる。そのため、今後の開発には自然生態系と社会生活の保全・改善が重要な課題である。解決策の１つとして、モンゴル政府は樹木を植える「グリーンベルト」構想による地域の緑化計画を進めている。また、地元自治体では、それ以外にも、野菜や果物などの緑を植えて、地元の経済活動を助け食料の自給にもつながる活動も展開している。地域社会や海外のNGOのサポートで、主な活動のいくつかはすでに始められている。

しかし、このような活動が広がるためには、まだ様々な障害がある。厳しい大陸性気候のために、気温は冬マイナス40℃、夏は40℃、地表の温度は60℃にも上る。ほとんど１年中、強風が吹いている。この土地の土壌は硬質の粘土で、シャベルなどの手工具では歯が立たず、重機しか使えない。従って、植林のために穴を掘るのもひと苦労で、地元の人々はまず水を撒いてから地面を掘る。水資源もまたゴビでは乏しいので、人も動物も地下水に頼っている。幸いにも、サインシャンド付近では井戸が多く点在し、灌漑設備の設置が容易で、近郊で野菜の栽培を始めた企業や個人もいる。ここは、旧ソ連軍の部隊が駐留した場所でもあり、水の供給のために井戸が多く作られたのだ。

このようなことから、この活動を発展させるためには、さらなる協力と支援、とりわけ日本のような先進国からの技術・知識の移転が不可欠なことは明らかだ。特に、日本有数の農業県である新潟は、自治体や地域社会レベルで様々な形の協力ができるだろう。今回の新潟からの使節団訪問が、その試みの先がけとなることを願う。

また、ここは豊富な鉱床に近いことから、将来はモンゴルの重工業発展の拠点としても期待されている。ドルノゴビ県は国内有数の鉱物資源の豊富な地域であり、現在まで

計画されているモンゴル国内の鉄道ルート（出所：モンゴル道路・運輸・建設・都市計画省）

サインシャンド工業団地の模型の一部

に73カ所の鉱床で、蛍石、ゼオライト、石炭、原油、金、銅、ニッケル、鉄、マンガン、クロム、タングステンなど38種類の鉱物が産出されている。サインシャンドからオユトルゴイ（世界有数の銅・金鉱山でアイヴァンホー・マインズ社とリオ･ティント社が運営）、タバントルゴイ（コークス用炭の埋蔵量は世界最大）までを繋ぐ鉄道建設が検討されている。

モンゴル道路・運輸・建設・都市計画省は、国内の鉄道インフラ開発戦略について話し合うため、2009年10月15日にウランバートルで国際会議を開いた。ここでは、国内の高度経済成長の推進力としてサインシャンド工業団地の開発計画が重要な課題として取り上げられた。政府は、国内経済を現在の採掘・抽出ベースから工業経済へと移行させるために、幅広い付加価値製品の開発を優先している。石炭液化工場、コークス工場、セメント工場、銅・銑鉄精錬工場、鋼鉄工場、石油精製所と、それらに付属するインフラ（発電所、鉄道等）が、サインシャンド工業地帯に建設される見込みである。2008年のモンゴルの名目GDPは52億ドル、鉱工業部門の雇用総数は124,100人だが、この工業地帯の建設には、100億ドル以上の投資を必要とし、396,000人分の仕事が創出されると見積もられている。モンゴルは2016～2021年までに１人当たりGDPを12,000ドルとすることを目標にしている。このように課題は意欲的だが、道路・運輸・建設・都市計画省の投資推進本部長Ch.ガンバット氏は、実現可能な事業融資と株式投資計画の展開によって実現できると自信をもっている。実際のところ、韓国、中国、ドイツ、アメリカ、イギリス、ロシアの個人･機関投資家たちが、すでにモンゴルの重工業開発事業への投資に関心を寄せている。

【英語原稿をERINAにて翻訳】